

---

### 血清 free light chain 測定 of 臨床的有用性の検討

伊藤淳治<sup>1</sup>、清水一之<sup>1</sup>、木下朝博<sup>2</sup>、小杉浩史<sup>3</sup>、杉浦勇<sup>4</sup>、津下圭太郎<sup>5</sup>、名倉英一<sup>6</sup>、  
(FreeLite 研究会)

名古屋市立緑市民病院<sup>1</sup>、名古屋大学大学院医学研究科<sup>2</sup>、大垣市民病院<sup>3</sup>、豊橋市民病院<sup>4</sup>、中京病院<sup>5</sup>、  
常滑市民病院<sup>6</sup>

【目的】血清 free light chain (sFLC) は半減期が数時間と短く、多発性骨髄腫の治療後の寛解と再燃を迅速に判定できる利点があると言われている。今回我々は sFLC 測定の臨床的有用性を検討するため、正常域設定のための予備試験と多発性骨髄腫患者における治療前後の sFLC の変化を検討した。

【方法】医学生物学研究所(株)から提供を受けたキット(英国 Binding Site 社製)を用い、院内の測定機器で FLC の定量を行った。貧血と血清免疫グロブリン値に異常のない健常人 180 名と多発性骨髄腫患者 17 名の血清と尿中の FLC を同意を得た上で測定した。【結果】健常人の  $\kappa$ -sFLC は 2.42-18.92mg/L(mean:10.67)、 $\lambda$ -sFLC は 4.44-26.18mg/L(mean:15.31) で、 $\kappa/\lambda$  ratio は 0.248-1.804(mean:0.669)であった。【結論】多発性骨髄腫患者の M 蛋白量と sFLC とに相関はなかった。治療による M 蛋白量の減少に並行して sFLC の減少が見られた。免疫電気泳動上 Bence Jones(BJ)蛋白が消失しても sFLC には異常の見られた症例があった。IgD や BJ 骨髄腫患者においては、治療効果を迅速に判定できた。一例の MGUS での sFLC は異常値であった